

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	0572808749		
法人名	株式会社 アキタニット		
事業所名	グループホームしゃくやく		
所在地	秋田県湯沢市小野字諏訪23番地6号 (電話) 0193-78-6221		
評価機関名	財団法人 秋田県長寿社会振興財団		
所在地	秋田市御所野下堤5丁目-1-1		
訪問調査日	平成20年10月9日	評価確定日	平成20年12月10日

【情報提供票より】(平成 20 年 9 月 22 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年9月1日		
ユニット数	2ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤15人, 非常勤2人, 常勤換算15人	

(2) 建物概要

建物構造	木造り		
	1階建ての	1階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	28,000 円	その他の経費(月額)	8,000~13,000 円	
敷金	有 (円)	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	300 円
	夕食	400 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要 (9月22日現在)

利用者人数	18 名	男性	5 名	女性	13 名
要介護1	7 名	要介護2	5 名		
要介護3	4 名	要介護4	1 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
平均	82.5 歳	最低	75 歳	最高	92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	JA秋田厚生連雄勝中央病院、高橋内科医院、秋野歯科医院
---------	-----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

慣れ親しんだ地域の中で、入居者一人ひとりが自分らしく落ち着いた生活が行なえるよう、生活暦や職歴等を把握し、毎日の食事づくりや掃除・洗濯等を職員と共に行うことで潜在的な能力に働きかけ引き出しながら、家族・地域・医療機関との連携を図り、寄り添うケアを実践している。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>注意が必要な物品は、すぐに取り出せないように施錠し保管している。要望や苦情を正確に把握して記録に残しており、しゃくやく通信で情報の開示を行っている。事故報告書の書式については、ホーム独自の書式を作成して、職員全員に報告をし、再発防止に努めている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価の重要性を理解し、日々のケアの振り返りの機会とし、職員全員で取り組んでいる。自己評価は年2回実施しており、通常の業務では気づきにくい課題を見出すことで、ケアの向上に活かしている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>2ヶ月に1回、運営推進会議を開催し、しゃくやく通信やビデオ等でホームの活動や入居者の状況等を知っていただき、メンバーのアンケートから得た意見を業務に反映させている。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族や本人から要望や悩みを伺いながらアセスメントし、支援計画を作成して、サービスの提供に取り組んでいる。また、家族へのアンケートの実施・苦情窓口の設置・面会等により、更に家族の意見や要望等を引き出すことが出来るよう努力している。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>町内会や学校行事に参加したり、近隣の小学生の体験学習や地域住民の訪問を快く受け入れている。また、ホーム独自に町内のクリーンアップ等を予定しており、地域に貢献し交流できるように積極的な取り組みを行なおうとしている。</p>

2. 評価報告書

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域とのかかわりを大切にし、「いっしょのケア、そして理想を現実に」という明確化された運営理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 運営者と管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	運営者と管理者・職員は常に理念を念頭に置き、より具体的なものとなるよう、月間の目標を掲げている。また、申し送りや会議等で理念に触れ、入居者の思いに寄り添ったケアが行えるよう取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	利用者と職員が町内会のクリーンアップへ参加したり、小学生の体験学習を受け入れたり、敬老会や運動会等に地域の方の協力を得るなど、いろいろな機会に地元の人々との交流を図っている。また、ホーム独自に町内のクリーンアップ等を予定しており、交流を深める取り組みをしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の項目に添って、年2回、全職員で自己評価を行い、サービスの質の向上に向けて取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、運営推進会議を行い、しゃくやく通信やビデオ等によりホームの活動や入居者の状況をメンバーに報告している。また、メンバーのアンケートから得た意見や要望をサービスの質の向上に活かしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	毎月、市主催のケア会議に参加し、市町村や他の事業所と情報交換や協議を行い、その内容を反映させサービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	しゃくやく通信を毎月発行しており、ホーム内の様子を伝えている。また、家族へ定期的に金銭管理の報告も行っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	アンケートの実施や面会時に、苦情や相談を引き出すよう努力している。また、苦情受付箱を設置しているが十分に活用されていない状況である。	○	家族の意見や要望等を更に引き出すことができるよう、窓口のPRや苦情受付箱や用紙等を検討されることを期待する。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	本人や家族への事前説明やしゃくやく通信で挨拶をする等、利用者の方のダメージを最小限に抑えるよう配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、運営者自身や管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修参加者は、伝達研修や回覧等で報告し、全職員が共有できるよう努めている。また、職員から研修希望を取るなど、スキルアップに繋がるよう配慮している。	○	職員の段階に応じた研修計画や職員の目標を設定して、年間の計画を立案していくことを期待する。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、運営者自身や管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム管理者会議や地域ケア会議等に参加し、他事業所との交流や相互訪問等を通じ、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう本人又は家族等と相談しながら工夫している	本人が納得してから入居できるよう、見学等の受入れを行ない、サービスの利用開始時はケアマネジャーや市町村及び家族と連絡を密にし、本人が徐々になじみながら安心して暮らしていけるよう支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、一人ひとりの生活歴を把握しており、普段の会話から昔の出来事を教えていただいたり、一緒に食事の準備・掃除・洗濯等の家事を行ったり、散歩や花摘みをするなど、共に過ごしながらか良好な関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	管理者や職員は、入居されている方や家族の意見を聞き入れて、一人ひとりの思いや希望に添った居室や環境を整えている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	グループミーティングを随時行い、話し合われた内容をもとに本人・家族と相談しながら支援計画を作成されており同意も得ている		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	担当職員によるモニタリングや月1回、ケース検討会議を行う等、利用者個々の状況に応じた見直しが定期的に行われている。更に、利用者の方々の状況変化については、関係者との話し合いを行い、現状に合ったケアが行われ、ノートに記載している。	○	ケース検討会議の内容を介護計画に反映できるように、個人ファイルのケース記録に残されることで、今後さらに利用者本位の介護計画となるよう期待する。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の状況変化が見られた場合は、家族や関係者との話し合いが行われ、通院や送迎・外出等、必要な支援を柔軟に行なっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医との連携が図られており、現在も診察を継続している。また、薬局等との連携も図られており、気軽に相談できる体制を築いている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医療との連携が図られ、家族との話し合いにより、終末期のケアについての希望を家族に確認している。また、ターミナルケアの経験を活かし、希望に添った支援をしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ケース記録は個別に管理され、個人情報の保護に努めている。ケアも個別対応され、職員間でプライドを傷つけない対応の徹底を図っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は、食事を一緒に作ったり、掃除や洗濯を利用者と共に行っている。また、希望により散歩や花摘みに行く等、決して急がせることなく、利用者一人ひとりのペースに合わせた支援を行なっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員は、一人ひとりに合わせた食事づくりを楽しみながら共に行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて、入浴を楽しむように支援している	健康観察を行い、少なくとも週2回の入浴を心掛けている。また、希望を聞いて地域の温泉に出かける等、楽しみながら入浴できるように支援している。	○	毎日入浴したい等の入居者の希望に添った支援が行なえるよう、職員の時間調整等を行う等、今後も検討していくことを期待する。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	プランターの野菜作り・掃除・洗濯・買い物等の役割があり、一人ひとりに生き生きと生活ができるような支援を行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	一人ひとりの希望に添って美容院へ行ったり、買い物・通院等、戸外に出かけている。また、季節にあわせ行事を企画し、外出の機会を作るよう努力している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに努めている	医療との連携が図られ、薬剤で拘束しないケアを行い、鍵をかけない自由な暮らしを支援している。また、外出傾向にある方については寄り添う支援をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時に備え、消防等に対する避難訓練等を行っているが、近隣の住民、各機関との協力体制の整備には至っていない。	○	地域住民や警察署、消防署等との連携を図り、災害を想定した具体的な取り組みを期待する。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるような状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立はバランスがよく、一日に必要なカロリーや栄養が摂取できるよう支援している。また、一人ひとりの状態に合わせ、刻み食にする等配慮し、季節の食材を取り入れて食欲を促す工夫がされている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や臭いや光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関先のプランターには野菜や花が植えられ、事業所内の温度・湿度の管理は適切に行なわれており、居室や廊下は空気のとどみ等の不快な感じはなく、居心地よく過ごせるよう工夫されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	その人らしい家具や絵画等の飾り付けがあり、居心地よく過ごせるよう配慮されている。また、広い居室は家族と一緒に泊まることもできる。		

※ は、重点項目。